

第13回本野地区語らん場を開催しました

開催日：令和7年2月21日（金）

語らん場とは？

高齢者が住み慣れた地域、自宅で、自分らしく、元気で暮らしていけるために、地域に合った助け合いや介護予防について、住民や介護事業所などと一緒に話し合いを重ねています。

◆生活支援コーディネーターより講話しました



内容

- ◆語らん場って何？
- ◆本野地区町別の高齢者割合と推移。
- ◆団塊ジュニア世代が高齢者になる2040年に向けて。
- ◆前回語らん場を振り返り。



小休憩は、きららの介護スタッフによる体操タイム。



「北国の春」の音色に合わせて(^▽^)/♪

◆グループメンバーでおしゃべりタイム

今後、免許返納やバス乗車が難しくなったときに・・・
「暮らしはどう変わる？今、近所に外出に困っている人はいる？
どんなことで困っている？これからの将来はどうかなあ？」



本明川ダム建設で、令和6年12月から県営バス運行ルートが変更したり、乗り合いバスが減数しました。

◆グループで話した「各町の現状や思い」を発表しました

(本野町)彦城班。Aコープが近いので買物は困らない。
車の免許を返納して、タクシー利用、徒歩で買物へ行っている。
諫早市のいさはやシニアおでかけ支援事業を活用。
配達やセニアカーや個人で移動販売を利用している人もいる。



(本野町)琴川班。自宅からバス停まで歩いて行くには遠い。
大野班。乗り合いタクシーが往復になり、助かっている人もいる。
便数は増えたが、県営バスと時間が合わない。
毎日困ることは、ゴミ捨て。





(湯野尾町)今のところ、運転しているので困っていない。
運転できない人は家族が支援。
将来、通院や買物に行くことが困るかもしれない。
バスは乗り慣れていないので、乗り方が分からない。

(湯野尾町)今はまだ元気で困っていないが、数年後は困るだろう。
今は、知人同士で乗り合わせたり、家族送迎、セニアカーを利用。
バス停が遠くてタクシーを利用している人もいる。
タクシーだと、町まで片道4,000円と高い。
終点から上に20軒ほどあるが、買物、受診、ゴミ捨てが困る。
人が集まれば、移動スーパーがあると助かる。



(下大渡野町)今は良いけど、5年たてば困るだろう。
今は、バスで行ける病院に変更したり、買物は家族支援がある。
バスに乗り慣れていないので、バス停を調べたり、乗り方を
知っておくことが大切。
サロンでみんなで情報交換していることが、とても良いです。

(下大渡野町)バス停まで遠いので、通院や買物は困る。
家族に頼むにもずっとは難しい。あちこち受診はできません。
寄り合いが少ないので、各家庭のことは分かりづらい状況。
セニアカーやタクシーを利用するが、バス停が屋根がなく吹きさらし
だったり、段差がある。困らないように健康が大切。家族に感謝。



(上大渡野町)今は、車の運転をしているので困っていない。
乗り合いバスが廃線になった地区の方は通院が困っていると思う。
バス停まで遠く、坂道なので、手を挙げたらバスが止まってくれる
のは助かる。

(富川町)急で長い坂が多かったり、車が通らない坂道も多い地域。
困っている人はいると思う。
今は車の運転や家族支援があるが、だんだん、買物や通院が難しく
なるだろう。利用者が多数いれば、移動スーパーが助かる。



全ての町から、「今は良くても、近い将来、通院と買物が困るかもしれない」という意見があがりました。それと同時に、これまでの方法を見直したり、工夫したり、近所同士で助けあったり、家族の支援、民間サービスの活用などで、自分らしい暮らしを整えている現状も知りました。今後、普段何気ない暮らしの中にある工夫や知恵、地域の支え合いなどを住民さんにお聞きしながら、次回語らん場でお伝えしていきたいと思います。

生活支援コーディネーター 田浦